

健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学に関する試験検査業務と感染症情報センター、並びに研究所の管理運営業務を実施している。

細菌検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒、苦情食品、収去食品、飲料水、プール水、河川水及び浴槽水等の試験検査、並びに調査研究を実施している。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査と、食中毒及び腸管感染症の発生時の検査、並びに調査研究を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査及び HIV 抗体検査を実施している。

理化学検査では、食品・添加物、及び家庭用品の規格等についての試験検査、食中毒、苦情食品の理化学検査、飲料水及びプール水の水質検査、室内空気中の化学物質検査、並びに調査研究を実施している。

また、試験検査の信頼性確保を目的として、内部精度管理・外部精度管理を実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に基づく感染症情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開(毎週更新)を行っている。

1 細菌検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査
保健所からの依頼により検査を実施した(表 1-2-1)。

腸管出血性大腸菌(EHEC)では 026、0111、0128、0157、血清型不明の届出があり検査を実施した。その結果、血清型不明は 0145、0174 と判明した(表 1-2-2)。026 (2 株)、0111 (2 株)、0157 (12 株)については、MLVA 法による遺伝子解析を実施した。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)では、カルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌(CPE)として *Enterobacter cloacae* 1 株からカルバペネマーゼ遺伝子(IMP 型)が検出された。その他 *E. cloacae* 1 株から基質拡張型β-ラクタマーゼ遺伝子(EBC 型)が検出された(表 1-2-3)。

ポツリヌス菌ではマウス法による毒素検出、ジフテリア菌では PCR 検査を実施した。また、国立感染症研究所にブルセラ属菌の検査を依頼した。

(2) 食中毒及び苦情食品の検査

食中毒及び苦情に伴う患者便、食品、拭き取り等について原因菌及び寄生虫の検索を行った(表 1-3)。原因菌等として、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌、アニサキス等が検出された。

(3) 収去食品等の検査

食品衛生法に基づく規格基準、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した(表 1-4)。

(4) 水質検査

水道法に基づく飲料水、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水の細菌検査を実施した。

また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレジオネラ検査を実施した(表 1-5)。

(5) 腸内細菌検査

保健所等からの依頼により職員及び給食従事者の定期検便等を実施した(表 1-6)。

2 ウイルス検査

(1) 結核・感染症発生動向調査事業に基づく検査
保健所からの依頼により検査を実施した(表 1-7)。

ア 麻しんウイルス及び風しんウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 17 検体、血液 17 検体及び尿 17 検体の計 51 検体について検査を実施した。その結果、風しんウイルスが 1 症例から 1 検体(1a 型)検出された。

イ 新型コロナウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 577 検体、鼻咽頭ぬぐい液 8,745 検体、喀痰 150 検体、髄液 1 検体、唾液 20,196 検体及びその他(気管吸引液 7 検体、うがい液 1 検体)の計 29,677 検体について検査を実施した(陰性化確認検査を含む)。その結果、新型コロナウイルスが咽頭ぬぐい液から 34 検体、鼻咽頭ぬぐい液から 824 検体、喀痰から 28 検体、唾液から 1,975 検体、うがい液から 1 検体検出された。

ウ デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルス検査

保健所から依頼された血液 2 検体について検査を実施した。その結果、2 検体からデングウイルス 1 型が検出された。

エ その他のウイルス検査

保健所及び病原体定点から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 97 検体について検査を実施した。

オ リケッチア検査

保健所から依頼された血液 4 検体、痲疹 3 検体の計 7 検体について検査を実施した。その結果、リケッチア・ジャポニカが血液 1 検体、痲疹 1 検体から検出された。

(2) 食中毒及び感染症発生時の検査

食中毒及び感染症発生時の食品、糞便及び拭き取り検体について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体について遺伝子解析(シーケンス)を実施した(表 1-8)。

3 臨床検査

(1) 三歳児健康診査

三歳児健康診査において、尿検査（一次、二次）を実施した（表 1-9）。一次検査での有所見者（糖・蛋白・潜血反応が±以上、白血球・亜硝酸塩が±以上）を対象に、二次検査を実施した。

(2) HIV抗体検査

特定感染症検査等事業に係る HIV 抗体検査を実施した。スクリーニング検査 11 件はすべて陰性であった（表 1-10）。

表 1-1 2020 年度 健康科学課（細菌・寄生虫・ウイルス・臨床）検査実施状況

		検体数
細菌	結核・感染症発生動向調査事業	133
	食中毒及び苦情食品（寄生虫を除く）	815
	収去食品等	139
	水質検査	861
	腸内細菌検査	140
寄生虫	食中毒及び苦情食品	1
ウイルス	結核・感染症発生動向調査事業	29,834
	食中毒及び感染症発生時	333
臨床	三歳児健康診査（尿検査）	6,902
	HIV 抗体検査	11
総計		39,169

表 1-2-1 2020 年度 結核・感染症発生動向調査事業に基づく細菌検査実施状況

検査項目	検体数
赤痢菌	-
チフス菌	7
コレラ菌	-
EHEC	104
CRE	15
ボツリヌス菌	4
ブルセラ属菌（依頼）	2
ジフテリア菌	1
計	133

表 1-2-2 2020 年度 EHEC 検査実施状況（再掲）

血清型	検体数
026	11
0111	13
0128	9
0145	3
0157	58
0174	10
計	104

表 1-2-3 2020 年度 CRE 検査実施状況（再掲）

菌種	検体数	検出遺伝子数（型）
<i>Enterobacter cloacae</i>	7	1 (IMP) 1 (EBC)
<i>Serratia marcescens</i>	1	-
<i>Klebsiella aerogenes</i>	6	-
<i>Proteus vulgaris</i>	1	-
計	15	2

表 1-3 2020 年度 食中毒及び苦情食品等の細菌検査実施状況(寄生虫を含む)

区 分		総数	食品	糞便	ふきとり	水	虫体	その他
検 体 数		816	419	195	197	3	1	1
項 目 数		9,234	3,739	2,729	2,745	19	1	1
検 査 項 目	生菌数	-	-	-	-	-	-	-
	大腸菌群	-	-	-	-	-	-	-
	E. coli	-	-	-	-	-	-	-
	ビブリオ属菌	601	237	181	182	1	-	-
	黄色ブドウ球菌	615	239	193	182	1	-	-
	サルモネラ属菌	784	407	181	192	3	-	1
	カンピロバクター	617	246	183	187	1	-	-
	腸管出血性大腸菌	601	237	181	182	1	-	-
	病原大腸菌	601	237	181	182	1	-	-
	セレウス菌	603	239	181	182	1	-	-
	ウェルシュ菌	602	238	181	182	1	-	-
	エルシニア	601	237	181	182	1	-	-
	エロモナス	603	237	181	182	3	-	-
	プレジオモナス	601	237	181	182	1	-	-
	赤痢菌	601	237	181	182	1	-	-
	コレラ菌	601	237	181	182	1	-	-
	チフス菌	601	237	181	182	1	-	-
	パラチフス菌	601	237	181	182	1	-	-
寄生虫	1	-	-	-	-	1	-	
検 出 状 況	黄色ブドウ球菌	56	26	23	7	-	-	-
	(再掲) コアグラーゼⅡ	8	8	-	-	-	-	-
	コアグラーゼⅣ	1	-	1	-	-	-	-
	コアグラーゼⅤ	1	1	-	-	-	-	-
	コアグラーゼⅦ	25	16	4	5	-	-	-
	(再掲) エンテロトキシンA(+)	27	16	6	5	-	-	-
	<i>Salmonella</i> Nagoya	6	1	4	-	-	-	1
	<i>Salmonella</i> Schwarzengrund	1	1	-	-	-	-	-
	<i>Campylobacter jejuni</i>	6	-	6	-	-	-	-
	セレウス菌	34	17	9	8	-	-	-
	(再掲) 下痢性毒素(+)	6	4	1	1	-	-	-
	嘔吐毒遺伝子(+)	7	5	1	1	-	-	-
	ウェルシュ菌	9	-	9	-	-	-	-
<i>Anisakis simplex</i>	1	-	-	-	-	1	-	

表 1-4 2020 年度 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	検体数	細菌検査項目														項目数				
		細菌数	大腸菌群	F.coli 最確数	F.coli	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セラウス菌	ウエルシュ菌	リステリア		クロストリジウム属菌	恒温試験	細菌試験	抗生物質
総数	139	70	61	2	43	2	202	8	47	46	28	32	3	-	-	-	5	5	-	554
魚介類	13	2	1	2	-	-	34	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47
冷凍食品 (無加熱摂取)	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
冷凍食品 (凍結前加熱)	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
冷凍食品 (凍結前未加熱)	3	3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
魚介類加工品	8	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
肉卵類及び その加工品	28	3	2	-	9	-	-	-	12	26	8	4	-	-	-	-	-	-	-	64
乳製品	4	2	4	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
アイスクリーム類	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
氷菓	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
穀類及び その加工品	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	4
野菜類・果実及び その加工品	32	14	20	-	11	-	48	-	8	-	-	8	2	-	-	-	-	-	-	111
菓子類	7	7	7	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
清涼飲料水	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
牛乳	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
加工乳(3%未満)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品	25	20	-	-	20	-	120	-	20	20	20	20	-	-	-	-	5	5	-	250

表 1-5 2020 年度 水質細菌検査実施状況

項目	検体数	一般細菌	嫌気性芽胞菌	大腸菌	大腸菌群	大腸菌群数	大腸菌群数 (最確数)	EHEC O157	レジオネラ	項目数
飲料水										
水道原水	126	4	104	122	-	-	-	-	-	230
水道水	232	232	-	232	-	-	-	-	-	464
井戸水	293	293	-	292	-	-	-	-	-	585
小計	651	529	104	646	-	-	-	-	-	1,279
プール水	10	10	-	-	10	-	-	-	-	20
事業場排水	38	-	-	-	-	38	-	-	-	38
河川水、海水	134	-	-	-	-	-	132	2	-	134
浴槽水、冷却塔水等	28	-	-	-	-	-	-	-	28	28
総数	861	539	104	646	10	38	132	2	28	1,499

表 1-8 2020 年度 食中毒及び感染症発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	8	160	-	161	-	329
	感染症	-	4	-	-	-	4
	計	8	164	-	161	-	333
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	8	164	-	161	-	333
	その他のウイルス(※)	8	147	-	151	-	306
	遺伝子解析	-	4	-	-	-	4
	計	16	315	-	312	-	643
検 出 状 況	ノロウイルス G I	-	4	-	-	-	4
	ノロウイルス G II	-	10	-	-	-	10
	サポウイルス	-	-	-	-	-	-
	アストロウイルス	-	-	-	-	-	-
	ロタウイルス	-	10	-	-	-	10
	アデノウイルス	-	-	-	-	-	-

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-9 2020 年度 三歳児健康診査

検 査 項 目		区 分	総 数	内 訳	
				一 次	二 次
尿	糖		6,902	6,307	595
	蛋白		6,902	6,307	595
	潜血反応		6,902	6,307	595
	白血球		6,902	6,307	595
	亜硝酸塩		6,902	6,307	595
	比重		6,307	6,307	-
	沈渣		595	-	595

表 1-10 2020 年度 HIV抗体検査実施状況

項目	件数	陽性数
スクリーニング検査	11	-
確認検査	-	-

4 理化学検査

保健所等からの依頼により検査を実施した。2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、検査依頼数が減少した。また、依頼がなかったことから、家庭用品の規格検査及び室内空気中の化学物質検査は実施しなかった。

(1) 食品等検査

検査総数は、食品等 164 検体、7,498 項目であった。

ア 添加物等検査

収去・買上検査として、甘味料 54 項目、着色料 324 項目、保存料 28 項目、発色剤 11 項目、防ばい剤 2 項目、合計 419 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

イ 乳等規格検査

収去・買上検査として、31 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

ウ 自然毒検査

収去・買上検査として、6 検体 6 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-2)。

エ 農産物等の残留農薬検査

収去・買上検査として、39 検体 6,664 項目、学校給食食材 10 検体 10 項目、全体として 177 種類の農薬について、合計 49 検体 6,674 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-3-1～3)。

オ 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

乳(生乳・牛乳) 6 検体 96 項目、食肉(牛肉・鶏肉) 9 検体 156 項目(うち 2 検体 2 項目は学校給食食材)、魚介類(生食用カキ) 2 検体 2 項目、全体として 22 種類の動物用医薬品について合計 17 検体 254 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-4)。

カ 食品中の放射性物質検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質による汚染状況を把握するため、流通食品 6 検体、学校等給食食材 50 検体、全体として 2 種類の放射性物質(セシウム 134、セシウム 137)について合計 56 検体 112 項目の検査を実施した(表 1-11-1、表 1-11-5)。

キ その他

魚介類について、ヒスタミン 2 項目の検査を実施した(表 1-11-1)。

(2) 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51 基準項目(31 健康項目+20 性状項目)、及び「千葉市遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を実施した。

検査件数は 704 件で、このうち飲料水等の水質検査は 693 件、プール水は 11 件であった(表 1-12-1)。

自家用井戸水の検査件数 293 件中 45 件(15.4%)で不適項目があった(表 1-12-2)。

必須項目検査を実施した自家用井戸水(293

件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表 1-12-3)。

検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査の検体数と不適合数を集計した(表 1-12-4)。

プール水検査状況を集計した(表 1-12-5)。

表1-11-2 2020年度 自然毒検査（検体種別 収去・買上検査）

検体名 項目名	ら	牛	生	カ	ホ	ム	総 計
	っ	乳	乳	キ	タ	ラ	
	か				テ	サ	
	せい				ガイ	キ	
						イ	
						ガイ	
検体数	0	5	1	0	0	0	6
アフラトキシン	-	-	-	-	-	-	0
アフラトキシンM1	-	5	1	-	-	-	6
下痢性貝毒	-	-	-	-	-	-	0
麻痺性貝毒	-	-	-	-	-	-	0
項目数	0	5	1	0	0	0	6

表 1-11-3-1 2020年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分類	検体種	検体数	項目数
果実	いちご	1	173
	日本なし	1	173
野菜	アスパラ	1	159
	えだ豆	1	173
	オクラ	2	348
	キャベツ	5	850
	きゅうり	1	173
	こまつな	3	516
	さつまいも	1	170
	さといも	1	170
	サラダ菜	2	346
	しょうが	1	177
	すいか	1	173
	セロリ	1	172
	だいこん	1	176
	トマト	1	176
	にら	2	342
	にんじん	3	531
	ねぎ	2	342
ブロッコリー	4	662	
ほうれんそう	4	662	
合計		39	6,664

表 1-11-3-2 2020年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 学校給食食材）

分類	検体種	検体数	項目数
野菜	キャベツ	2	2
	きゅうり	1	1
	こまつな	2	2
	ねぎ	2	2
	はくさい	2	2
	ピーマン	1	1
合計		10	10

表 1-11-3-3 2020年度 農作物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上、学校給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
BHC	39	ジメピペレート	39	フルフェノクスロン	34
DDT	39	シラフルオフェン	39	フルミオキサジン	39
XMC	39	ダイアジノン	39	フルミクロラックペンチル	30
アクリナトリン	39	チオベンカルブ	39	プレチラクロール	39
アザコナゾール	39	チオメトン	37	プロシミドン	39
アセタミプリド	39	テトラクロルビンホス	39	プロチオホス	39
アセトクロール	39	テトラジホン	39	プロパクロール	37
アトラジン	30	テニルクロール	39	プロパニル (DCPA)	30
アメトリン	20	テブコナゾール	39	プロバルギット	39
アルジカルブ	34	テブフェノシト	34	プロピコナゾール	39
アルドリン及びディルドリン	14	テブフェンピラド	39	プロピザミド	39
イサゾホス	39	テフルトリン	39	プロフェノホス	39
イソキサチオン	39	テフルベンズロン	34	プロボキスル	39
イソフェンホス	39	デルタメトリン	39	プロマシル	39
イソプロカルブ	39	テルブホス	39	プロメトリン	39
イソプロチオラン	39	トリアジメノール	39	プロモブチド	39
イプロジオン	39	トリアジメホス	39	プロモプロピレート	39
イプロバリカルブ	34	トリアゾホス	39	プロモホスメチル	39
イプロベンホス	39	トリアレート	39	ヘキサジノン	39
イマザメタベンズメチルエステル	39	トリブホス (DEF)	39	ベナラキシル	39
イミベンコナゾール	36	トリフロキシストロビン	39	ベノキサコル	39
エスプロカルブ	39	トルクロホスメチル	39	ヘプタクロール	39
エチオン	39	トルフェンピラド	39	ペルメトリン	39
エディフェンホス	39	ナプロパミド	39	ベンダイオカルブ	34
エトフメセート	39	ニトロタルイソプロピル	39	ベンディメタリン	39
エトプロホス	39	ノルフルラゾン	39	ベンフルラリン	37
エトリムホス	39	パクロブトラゾール	39	ベンフレセート	39
エンドスルフアン	39	パラチオン	39	ホサロン	39
エンドリン	12	パラチオンメチル	39	ホスチアゼート	39
オキサジアゾン	39	ハルフェンプロックス	39	ホスファミドン	39
オキサジキシル	39	ビテルタノール	39	ホスメット	30
オキサミル	34	ビフェントリン	39	ホレート	37
オキシフルオルフェン	39	ピペロホス	39	マラチオン	39
カズサホス	39	ピラクロホス	39	マイクロブタニル	39
カルバリル	34	ピラゾホス	39	メタラキシル	39
カルフェントラゾンエチル	39	ピリダフェンチオン	39	メチオカルブ	39
カルボフラン	39	ピリダベン	39	メチダチオン	39
キナルホス	20	ピリフェノックス	39	メトキシクロル	39
キノキシフェン	39	ピリプロキシフェン	39	メトミノストロビン	39
キノクラミン	20	ピリミカルブ	34	メトラクロール	39
キントゼン	37	ピリミホスメチル	39	メフェナセツト	39
クロマゾン	39	ピンクロズリン	39	メプロニル	39
クロルタルジメチル (TCTP)	39	フェナミホス	39	モノクロトホス	39
クロルデン	39	フェナリモル	39	ルフェヌロン	34
クロルピリホス	49	フェニトロチオン	39	レナシル	36
クロルピリホスメチル	39	フェノチオカルブ	39		
クロルフェンビンホス	39	フェノトリン	39		
クロルフルアズロン	34	フェノブカルブ	34		
クロルプロファミ	39	フェンスルホチオン	39		
クロルベンジレート	39	フェンチオン	39		
シアノホス	39	フェントエート	39		
ジエトフェンカルブ	39	フェンバレレート	39		
ジクロホップメチル	39	フェンコナゾール	39		
ジクロラン	39	フェンプロパトリン	39		
ジコホール	37	フェンプロピモルフ	39		
シハロトリン	39	フサライド	39		
ジフェナミド	39	ブタミホス	39		
ジフェノコナゾール	39	ブピリメート	39		
シフルトリン	39	ブプロフェジン	39		
ジフルベンズロン	34	フラムプロップメチル	39		
シプロコナゾール	39	フルアクリピリム	39		
シベルメトリン	39	フルシトリネート	39		
シマジン	39	フルシラゾール	39		
ジメタメトリン	37	フルトラニル	30		
ジメチルビンホス	39	フルトリアホール	39		
ジメトエート	39	フルバリネート	39		
				合計	6,674

表 1-11-4 2020 年度 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検体名 項目名	牛乳	生乳	鶏卵	牛肉	豚肉	鶏肉	アユ	マダイ	コイ	ニジマス	ウナギ	ヒラメ	クルマエビ	ブリ	スズキ	生食用カキ	総計	
	検体数	5	1	0	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0		2
オキシテトラサイクリン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15
クロルテトラサイクリン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
テトラサイクリン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
スルファメラジン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
スルファジミジン	5	1	-	4	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
スルファモノメトキシシ	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
スルファジメトキシシ	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
スルファキノキサリン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
スルファジアジン	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
スルファチアゾール	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
スルファドキシシ	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
スルファメトキサゾール	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
オキノリン酸	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
チアンフェニコール	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
オルメトプリム	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
チアベンダゾール	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
フルベンダゾール	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
トリメトプリム	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
5-プロピルスルホニル -1H-ベンズイミダゾール -2-アミン	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
レバミゾール	5	1	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
オフロキサシ	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
オルビロキサシ	-	-	-	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
項目数	80	16	0	88	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	254

表 1-11-5 2020 年度 放射性物質検査

対象食品	検体数	依頼元
流通食品	6	保健所（食品安全課）
保育所給食	提供食	こども未来局（幼保運営課）
	食 材	
学校給食	提供食	教育委員会（保健体育課）
	食 材	
合 計	56	

表 1-12-1 2020 年度 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検体名	検査種別	一般依頼件数	保健所依頼件数	合計
飲料水等	全項目検査	11	0	11
	省略不可能項目検査	60	0	60
	必須項目検査	441	0	441
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	12	0	12
	消毒副生成物検査	6	0	6
	原水項目検査	4	0	4
	単項目検査（細菌検査を含む）	159	0	159
	小 計	693	0	693
プール水		11	0	11
合 計		704	0	704

表 1-12-2 2020 年度 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率 (%)
自家用井戸水	293	248	45	15.4
専用水道原水	89	87	2	2.2
専用水道浄水	231	231	0	0.0
小規模専用水道原水	19	8	11	57.9
小規模専用水道浄水	18	18	0	0.0
簡易専用水道水	17	17	0	0.0
その他	26	26	0	0.0
合 計	693	635	58	8.4

表 1-12-3 2020 年度 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不 適 合 数	不 適 合 率 (%)	項 目 別 不 適 合 数									
				一般 細菌	大腸 菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度
中央区	23	3	13.0	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-
花見川区	14	3	21.4	2	-	1	1	-	-	-	-	1	-
稲毛区	14	3	21.4	1	-	-	3	-	-	-	-	-	-
若葉区	194	26	13.4	9	1	1	11	-	-	-	2	3	2
緑区	46	9	19.6	5	-	1	2	-	-	-	-	1	1
美浜区	0	0	0.0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉市外	2	1	50.0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	293	45	15.4	19	2	3	19	0	0	0	2	5	3

表 1-12-4 2020 年度 項目別飲料水等理化学検査

		検体数	不適合数	不適合率(%)
健康 に 関 す る 項 目	カドミウム及びその化合物	15	0	-
	水銀及びその化合物	15	0	-
	セレン及びその化合物	15	0	-
	鉛及びその化合物	27	0	-
	ヒ素及びその化合物	24	0	-
	六価クロム化合物	15	0	-
	亜硝酸態窒素	528	3	0.6
	シアン化物イオン及び塩化シアン	81	0	-
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	528	19	3.4
	フッ素及びその化合物	15	0	-
	ホウ素及びその化合物	15	0	-
	四塩化炭素	15	0	-
	1,4-ジオキサン	15	0	-
	シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロロエチレン	15	0	-
	ジクロロメタン	15	0	-
	テトラクロロエチレン	15	0	-
	トリクロロエチレン	15	0	-
	ベンゼン	15	0	-
	塩素酸	77	0	-
	クロロ酢酸	77	0	-
	クロロホルム	77	0	-
	ジクロロ酢酸	77	0	-
	ジブロモクロロメタン	77	0	-
	臭素酸	77	0	-
	総トリハロメタン	77	0	-
	トリクロロ酢酸	77	0	-
	ブロモジクロロメタン	77	0	-
	ブロモホルム	77	0	-
ホルムアルデヒド	77	0	-	
性 状 に 関 す る 項 目	亜鉛及びその化合物	27	0	-
	アルミニウム及びその化合物	18	0	-
	鉄及びその化合物	38	0	-
	銅及びその化合物	27	0	-
	ナトリウム及びその化合物	15	0	-
	マンガン及びその化合物	38	0	-
	塩化物イオン	528	0	-
	カルシウム、マグネシウム等(硬度)	15	0	-
	蒸発残留物	27	0	-
	陰イオン界面活性剤	15	0	-
	ジェオスミン	15	0	-
	2-メチルイソボルネオール	15	0	-
	非イオン界面活性剤	15	0	-
	フェノール類	15	0	-
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	528	0	-
	pH値	528	0	-
臭気	528	5	0.9	
色度	528	5	0.9	
濁度	528	3	0.6	
	合 計	5,678	35	

表 1-12-5 2020 年度 プール水検査

検査項目	検体数
pH値	10
濁度	10
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	10
総トリハロメタン	1
合計	31

5 精度管理

試験検査の信頼性確保を目的として、精度管理を実施した（表 1-13）。

また、試験検査及び使用する機器類の保守点検は、「標準作業書」に基づき実施した。「標準作業書」は常に見直し、必要な改訂を実施した。

（1）細菌検査

ア 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年 4 回実施した。

イ 外部精度管理

(7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 2 年度）「課題 1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌」及び「課題 3 チフス菌・パラチフス A 菌」に参加した。

(4) 第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（E.coli 検査）を実施した。

（2）ウイルス検査

ア 外部精度管理

(7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（令和 2 年度）「課題 2 インフルエンザウイルス」に参加した。

(4) 厚生労働省委託事業「新型コロナウイルス感染症の PCR 検査等にかかる精度管理調査」に参加した。

（3）臨床検査

ア 外部精度管理

国立感染症研究所エイズ研究センターが実施する「HIV-NAT 検査精度管理調査」に参加した。

（4）理化学検査

内部精度管理は検査試行毎の精度確認として、外部精度管理は、擬似食品等の測定値を他の参加検査施設と比較することにより実施した（表 1-14）。

ア 食品等検査

(7) 内部精度管理

試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

(4) 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された 4 検体 6 項目について検査を実施した。

イ 飲料水等検査

(7) 内部精度管理

約 10 試料ごと及び全ての試験終了後に一定濃度の標準試料について試験を行い、測定が規定値内であることを確認した。

(4) 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会及び厚生労働省が実施する外部精度管理に参加し、5 検体 4 項目について実施した。

表 1-13 精度管理

検体種別	根拠規程
感染症の患者の検体等	千葉県病原体等検査業務要領
千葉県食品衛生監視指導計画に基づく収去食品等	千葉県食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領
千葉県家庭用品監視指導要領に基づく検体	千葉県家庭用品監視指導要領
飲料水等	水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）

表 1-14 2020 年度 理化学検査における精度管理

	内部精度管理		外部精度管理		
	実施頻度	実施項目	実施項目数 実施検体数	実施項目	実施機関
食品等	検査 実施毎	添加回収試験	4 検体 6 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・シロップ中のソルビン酸の定量 ・ほうれんそう中の 6 種農薬中 3 種農薬の定性と定量 ・鶏肉（むね）ペースト中のスルファジミジンの定量 ・あん類中の着色料の定性 	一般財団法人食品薬品安全センター
飲料水		約 10 試料ごと及び全ての試験終了後の標準試料測定	2 検体 2 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・塩化物イオン ・有機物（全有機炭素（TOC）の量） 	千葉県水道水質管理連絡協議会（水質検査精度管理委員会）
			3 検体 2 項目	<ul style="list-style-type: none"> ・フェノール類 ・六価クロム化合物 	厚生労働省

6 千葉市感染症情報センター

感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく「感染症発生動向調査事業実施要綱」の規定により、多様な感染症の発生及びまん延を防止し、適切な感染症対策を立案することを目的に、感染症の発生情報の把握と分析、及び病原体情報の収集、分析を行い、その結果を国に報告するとともに、保健所、医療機関等の関係者への還元・提供、ホームページで公開している。

事業は年単位（毎年1月から12月まで）で実施しているが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（第36週（9月）から翌年の第35週（8月）まで）で集計・解析している。

2020年の感染症発生動向調査の対象感染症は、全数把握対象感染症が90疾患（一類7疾患、二類7疾患、三類5疾患、四類44疾患、五類の一部24疾患、及び新型インフルエンザ等感染症2疾患、並びに指定感染症（1疾患）、定点把握対象感染症が25疾患（五類の一部24疾患及び疑似症）となっている。調査対象感染症一覧（表1-15）。

（1）全数把握対象感染症の発生状況

全数把握感染症の月別届出数（表1-16）、及び過去5年の年別届出数（表1-17）。

概要は次のとおり。

ア 二類感染症

（7）結核

届出数は155件で継続して減少。無症状病原体保有者の割合は2016年以降増加傾向だが、2020年は32.3%（50件）で2019年とほぼ同数で推移（図1-1-1）。男性100件（64.5%）、女性55件（35.5%）、年齢中央値は全体で62歳、男性は63歳、女性は55歳（図1-1-2）。

イ 三類感染症

（7）腸管出血性大腸菌感染症

届出数は20件でほぼ同数で推移、うち溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は1件（図1-2-1）。男性8件（40.0%）、女性12件（60.0%）、年齢中央値は23.5歳で、40歳未満で全体の80.0%（16件）（図1-2-2）。

（4）腸チフス

届出数は2件で2018年以降の届出。いずれも男性で10歳代と60歳代。うち1件は国外での感染。

ウ 四類感染症

（7）E型肝炎

届出数は4件で2019年より減少。全て男性で60歳代が3件、80歳代が1件。感染経路は、1件は経口感染（推定）、残り3件は不明。

（4）デング熱

届出数は2件。いずれも国外での感染（推定）で、病型はいずれもデング熱。

（4）日本紅斑熱

届出数は1件で1999年の調査開始以来初めての届出。刺口があり、動物・蚊・昆虫等からの感染を推定（県内での入山歴あり）。

（1）レジオネラ症

届出数は13件で2019年よりやや減少。病型は全て肺炎型（図1-3-1）。男性12件（92.3%）、女性1件（7.7%）、全て40歳代以上で、年齢中央値は67歳（図1-3-2）。

エ 五類感染症

（7）アメーバ赤痢

届出数は1件で2016年以降減少傾向。男性で病型は腸管アメーバ症（図1-4）。

（4）ウイルス性肝炎

届出数は4件で2017年以降の届出。年齢階級別では20歳代から50歳代まで1件ずつ。全て男性で病型はB型（図1-5）。

（4）カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

届出数は13件で2019年より減少。男性10件（76.9%）、女性3件（23.1%）、年齢中央値は71歳（図1-6-1）。菌検出は、通常無菌的であるべき検体から4件（30.8%：Enterobacter aerogenes及びE. cloacae 2件ずつ）、通常無菌的ではない検体から9件（69.2%：E. aerogenes 3件、E. cloacae 5件、Serratia marcescens 1件）（図1-6-2、図1-6-3）。

（1）急性脳炎

届出数は10件で2017年以降減少傾向。10歳未満で全体の90.0%（9件）。男性7件（70.0%）、女性3件（30.0%）（図1-7）。

（4）クロイツフェルト・ヤコブ病

届出数は2件で2019年より減少。いずれも女性、60歳代以上で病型は全て古典型クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）。

（4）劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は5件で2019年より減少。男性2件（40.0%）、女性3件（60.0%）。全て60歳代以上で年齢中央値は75歳（図1-8-1）。病原体の血清群は、A群B群C群が各1件、G群2件（図1-8-2）。

（4）後天性免疫不全症候群

届出数は2件で2016年以降減少傾向。いずれも男性で40歳代。

（4）侵襲性インフルエンザ菌感染症

届出数は2件で2019年より減少。いずれも女性で0歳代と80歳代。

（4）侵襲性肺炎球菌感染症

届出数は5件で2018年以降5分の1に減少（図1-9-1）。男性3件（60.0%）、女性2件（40.0%）（図1-9-2）。

（4）水痘（入院例に限る。）

届出数は1件20歳代男性で、2019年より減少。

（4）梅毒

届出数は24件で2019年より減少。過去5年は30件前後で推移。年齢中央値は全体27歳、男性38歳、女性24.5歳（図1-10-1）。病型別は、早期顕症梅毒（I期）及び早期顕症梅毒（II期）が各6件（各25.0%）、無症状病原体保有者12件（50.0%）（図1-10-2）。

(シ) 百日咳

2018年1月に小児科定点把握疾患から成人を含む全数把握疾患に変更。届出数は10件で、2018年の20分の1未満に減少。年齢中央値は11.5歳で、20歳未満が全体の90.0% (9件)。20歳未満のワクチン接種歴は88.9% (8件)、成人 (1件) は不明 (図 1-11)。

(8,998件) の約0.2% (図 2-2)。

(ス) 風しん

届出数は2件で流行開始前の2017年と同程度。いずれも男性で20歳代と50歳代。

オ 指定感染症

(7) 新型コロナウイルス感染症

届出数は1,729件 (図 1-12-1)。男性1,018件 (58.9%)、女性711件 (41.1%) で、年齢中央値は38歳、年齢階級別では20歳代480件 (27.8%)、30歳代253件 (14.6%)、40歳代248件 (14.3%) の順 (図 1-12-2)。類型別では、患者1,442件 (83.4%)、無症状病原体保有者281件 (16.3%)、疑似症患者6件 (0.3%)。無症状病原体保有者の年齢階級別の割合は0歳代が36件中17件 (47.2%)、90歳代以上が23件中6件 (26.1%)、70歳代が109件中27件 (24.8%) の順 (図 1-12-3)。

(2) 定点把握対象の感染症

定点把握感染症 (小児科) 報告数の年別推移 (図 2-1)、定点把握感染症 (インフルエンザ) 報告数のシーズン別推移及び型別迅速診断結果 (図 2-2)、定点把握感染症 (眼科) 報告数の年別推移 (図 2-3)、定点把握性感染症の月別報告数 (表 1-18)、定点把握感染症 (基幹) 報告数の年別推移 (図 2-4)、並びに基幹定点把握感染症の月別報告数 (表 1-19)。定点把握感染症 (小児科、インフルエンザ、眼科) は、全般的に報告数が大幅に減少。

概要は次のとおり。

ア 五類感染症

(7) RSウイルス感染症

報告数は24件で2019年 (318件) の10分の1未満に減少。第15週以降発生報告がない (図 2-1)。

(イ) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数は927件で2019年 (2,062件) の2分の1未満に減少。第16週に定点当たりの報告数が1.0を下回り、以降そのまま推移 (図 2-1)。

(ウ) 感染性胃腸炎

報告数は1,966件で2019年 (4,800件) の2分の1未満に減少。第11週に定点当たりの報告数が2.0を下回った後、殆どの週で1.0以上を維持し一定数の発生が継続 (図 2-1)。

(エ) 突発性発しん

報告数は548件で2019年 (490件) より増加。発生動向は、例年と同程度 (図 2-1)。

(オ) インフルエンザ

(2020年36週から2021年35週)

報告数は18件で、届出が少なかった2019年-2020年シーズン (4,872件) を除く2016年-2017年シーズン以降の3シーズンの平均

表1-15 調査対象感染症一覧（2021年2月13日施行）

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
1	一類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2		クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3		痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4		南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5		ペスト	全数	直ちに	○	○	○
6		マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7		ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	二類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9		結核	全数	直ちに	○	○	○
10		ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11		重症急性呼吸器症候群 *1	全数	直ちに	○	○	○
12		中東呼吸器症候群 *2	全数	直ちに	○	○	○
13		鳥インフルエンザ（H5N1）	全数	直ちに	○	○	○
14		鳥インフルエンザ（H7N9）	全数	直ちに	○	○	○
15	三類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16		細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17		腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18		腸チフス	全数	直ちに	○		○
19		パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	四類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21		ウエストナイル熱 *3	全数	直ちに	○		○
22		A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23		エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24		黄熱	全数	直ちに	○		○
25		オウム病	全数	直ちに	○		○
26		オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
27		回帰熱	全数	直ちに	○		○
28		キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
29		Q熱	全数	直ちに	○		○
30		狂犬病	全数	直ちに	○		○
31		コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
32		サル痘	全数	直ちに	○		○
33		ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34		重症熱性血小板減少症候群 *4	全数	直ちに	○		○
35		腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36		西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37		ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38		炭疽	全数	直ちに	○		○
39		チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40		つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41		デング熱	全数	直ちに	○		○
42		東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43		鳥インフルエンザ *5	全数	直ちに	○		○
44		ニパウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45		日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46		日本脳炎	全数	直ちに	○		○
47		ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
48	四類	Bウイルス病	全数	直ちに	○		○
49		鼻疽	全数	直ちに	○		○
50		ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51		ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52		ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53		発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54		ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55		マラリア	全数	直ちに	○		○
56		野兔病	全数	直ちに	○		○
57		ライム病	全数	直ちに	○		○
58		リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59		リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60		類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61		レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62		レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63		ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	五類	アメーバ赤痢	全数	7日以内	○		
65		ウイルス性肝炎 *6	全数	7日以内	○		
66		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	全数	7日以内	○		
67		急性弛緩性麻痺 *7	全数	7日以内	○		
68		急性脳炎 *8	全数	7日以内	○		
69		クリプトスポリジウム症	全数	7日以内	○		
70		クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7日以内	○		
71		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7日以内	○		
72		後天性免疫不全症候群	全数	7日以内	○		○
73		ジアルジア症	全数	7日以内	○		
74		侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7日以内	○		
75		侵襲性髄膜炎菌感染症	全数	直ちに	○		
76		侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7日以内	○		
77		水痘 *9	全数	7日以内	○		
78		先天性風しん症候群	全数	7日以内	○		
79		梅毒	全数	7日以内	○		○
80		播種性クリプトコックス症	全数	7日以内	○		
81		破傷風	全数	7日以内	○		
82		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7日以内	○		
83		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7日以内	○		
84		百日咳	全数	7日以内	○		
85		風しん	全数	直ちに	○		
86		麻しん	全数	直ちに	○		
87		薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7日以内	○		
88		R S ウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89		咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
91		感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
92		水痘	定点	翌週の月曜日	○		
93		手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
94		伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		
95		突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
96		ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○		

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	疑似症 患者	無症状病原 体保有者
97	五類	流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
98		インフルエンザ *10	定点	翌週の月曜日	○		
99		急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
100		流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
101		性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
102		性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
103		尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
104		淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
105		クラミジア肺炎 *11	定点	翌週の月曜日	○		
106		細菌性髄膜炎 *12	定点	翌週の月曜日	○		
107		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
108		マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
109		無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
110		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
111	薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○			
112	新型インフル エンザ等 感染症	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
113		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114		新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
115		再興型新型コロナウイルス感染症	全数	直ちに	○	○	○
116	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経学的症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般的に認められている医学的知見に基づき、集中医療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに	-	-	-

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る

*3 ウエストナイル脳炎を含む

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る

*5 鳥インフルエンザ（H5N1及びH7N9）を除く

*6 E型肝炎及びA型肝炎を除く

*7 急性灰白髄炎を除く

*8 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

*9 患者が入院を要すると認められるものに限る

*10 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

*11 オウム病を除く

*12 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生動向調査事業の実施について
（平成11年3月19日健医発第458号通知）

（令和3年2月10日健感発0210第6号改正）2021年2月13日施行

表1-16 全数把握感染症の月別届出数（2020年）

類型	感染症名	届出数												
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
二類	急性灰白髄炎													
	結核	155	17	11	18	9	5	10	17	12	16	18	10	12
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群													
	中東呼吸器症候群													
	鳥インフルエンザ													
	鳥インフルエンザ（H7N9）													
三類	コレラ													
	細菌性赤痢													
	腸管出血性大腸菌感染症	20				3		1	5	1	8	2		
	腸チフス	2		1			1							
	パラチフス													
四類	E型肝炎	4	1			1		1			1			
	ウエストナイル熱													
	A型肝炎													
	エキノコックス症													
	黄熱													
	オウム病													
	オムスク出血熱													
	回帰熱													
	キャサヌル森林病													
	Q熱													
	狂犬病													
	コクシジオイデス症													
	サル痘													
	ジカウイルス感染症													
	重症熱性血小板減少症候群													
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
	炭疽													
	チクングニア熱													
	つつが虫病													
デング熱	2				2									
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ（H5N1・H7N9除く）														
ニパウイルス感染症														
日本紅斑熱	1						1							

類型	感染症名	届出数												
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
四類	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
	ポツリヌス症													
	マラリア													
	野兔病													
	ライム病													
	リッサウイルス感染症													
	リフトバレー熱													
	類鼻疽													
	レジオネラ症	13	1	1	1		3	1	1	1	1	2	1	
レプトスピラ症														
ロッキー山紅斑熱														
五類	アメーバ赤痢	1	1											
	ウイルス性肝炎	4			1						1	1		1
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	13	2		1	2		2	3	1				2
	急性弛緩性麻痺													
	急性脳炎	10	1	2			1		2	2	1		1	
	クリプトスポリジウム症													
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2				1					1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	1	1	1	1								1
	後天性免疫不全症候群	2							1			1		
	ジアルジア症													
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2									1	1		
	侵襲性髄膜炎菌感染症													
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1	1	1						1		1	
	水痘（入院例）	1								1				
	先天性風しん症候群													
	梅毒	24	1	3	2		2	2	1		1	3	4	5
	播種性クリプトコックス症													
	破傷風													
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
百日咳	10	2	4	3						1				
風しん	2	1	1											
麻しん														
薬剤耐性アシネトバクター感染症														
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
指定	新型コロナウイルス感染症	1,729		1	2	91	15	5	143	162	172	247	263	628
	計	2,007	29	26	30	110	27	23	174	182	203	275	280	648

表1-17 全数把握感染症の年別届出数（2016年-2020年）

類型	感染症名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	急性灰白髄炎					
	結核	238	215	177	167	155
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群					
	鳥インフルエンザ					
鳥インフルエンザ（H7N9）						
三類	コレラ	1				
	細菌性赤痢	1	1	1		
	腸管出血性大腸菌感染症	20	24	24	19	20
	腸チフス			1		2
	パラチフス					
四類	E型肝炎	7	7	7	9	4
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	5	5	9	6	
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症				1	
	サル痘					
	ジカウイルス感染症					
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱					
	つつが虫病		2	1		
	デング熱	5	1		3	2
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱					1
日本脳炎						
ハンタウイルス肺症候群						
Bウイルス病						

類型	感染症名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
四類	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
	ヘンドラウイルス感染症					
	発しんチフス					
	ボツリヌス症					
	マラリア					
	野兔病					
	ライム病					
	リッサウイルス感染症					
	リフトバレー熱					
	類鼻疽					
	レジオネラ症	8	7	14	15	13
	レプトスピラ症					
	ロッキー山紅斑熱					
五類	アメーバ赤痢	8	5	3	6	1
	ウイルス性肝炎	2	1			4
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	12	16	20	21	13
	急性弛緩性麻痺			3	1	
	急性脳炎	30	19	12	15	10
	クリプトスポリジウム症	1				
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1	3	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7	3	9	9	5
	後天性免疫不全症候群	8	5	3	6	2
	ジアルジア症	1		1		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	5	1	3	7	2
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		
	侵襲性肺炎球菌感染症	28	25	25	12	5
	水痘（入院例）	1		3	5	1
	先天性風しん症候群					
	梅毒	29	33	23	34	24
	播種性クリプトコックス症	3		2	2	
	破傷風		1	2	2	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					
	百日咳	-	-	222	137	10
風しん	4	1	95	48	2	
麻しん				3		
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1					
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ					
	再興型インフルエンザ					
指定	新型コロナウイルス感染症	-	-	-	-	1,729

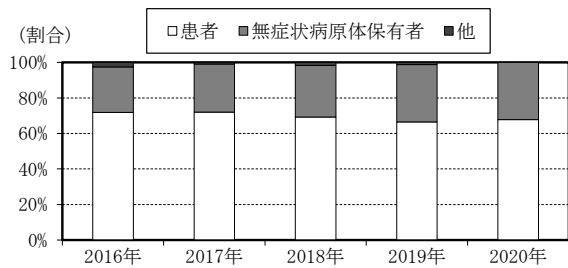


図1-1-1 結核 過去5年の診断類型の割合の推移

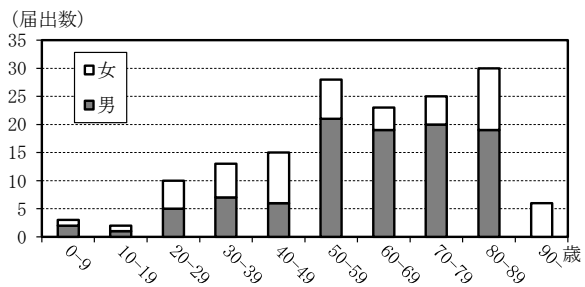


図1-1-2 結核 性別及び年齢階級別届出数

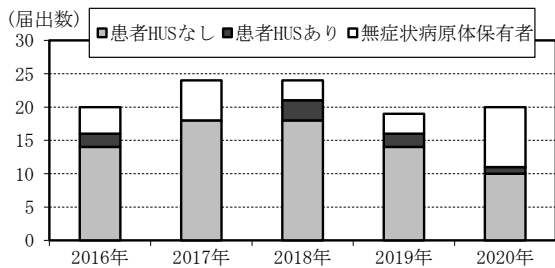


図1-2-1 腸管出血性大腸菌感染症 過去5年の届出数の推移

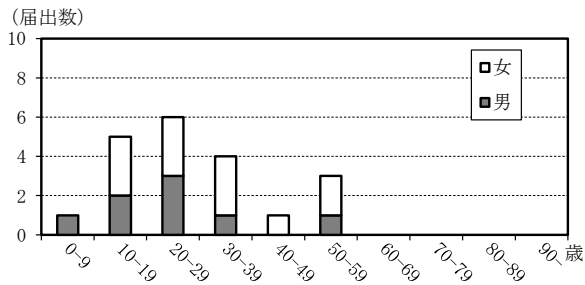


図1-2-2 腸管出血性大腸菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

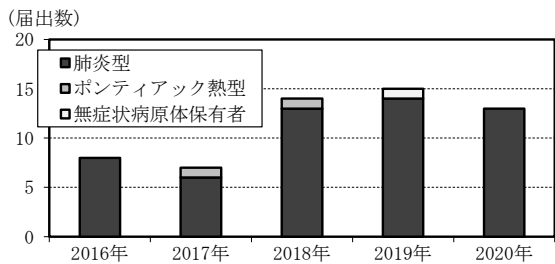


図1-3-1 レジオネラ症 過去5年の届出数の推移

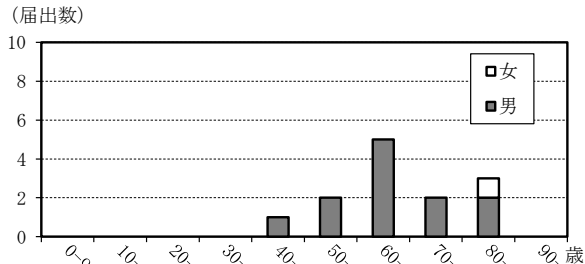


図1-3-2 レジオネラ症 性別及び年齢階級別届出数

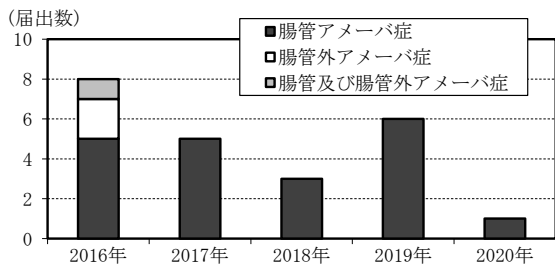


図1-4 アメーバ赤痢 過去5年の届出数の推移

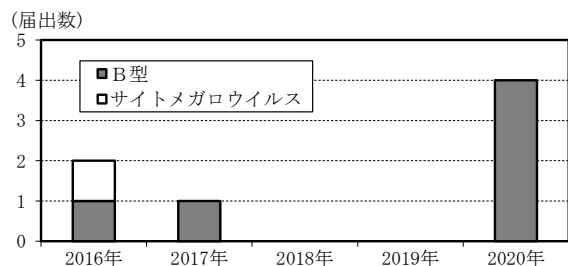


図1-5 ウイルス性肝炎 過去5年の届出数の推移

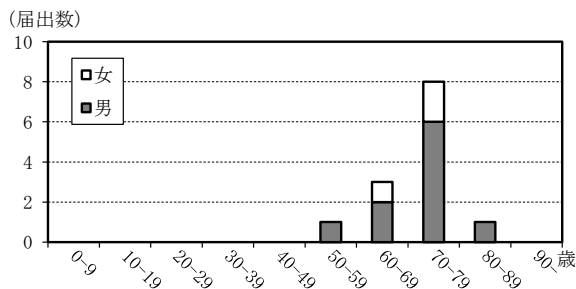


図1-6-1 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

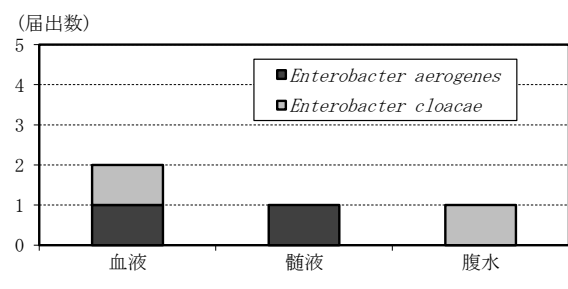


図1-6-2 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 無菌的であるべき検体種別及び検出菌

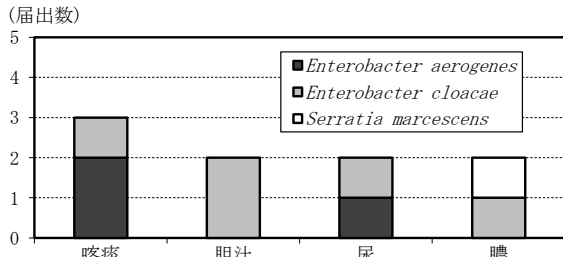


図1-6-3 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
無菌的ではない検体種別及び検出菌

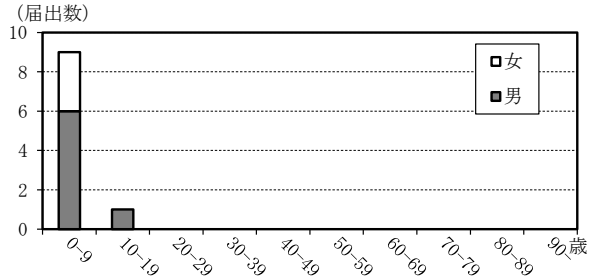


図1-7 急性脳炎 性別及び年齢階級別届出数

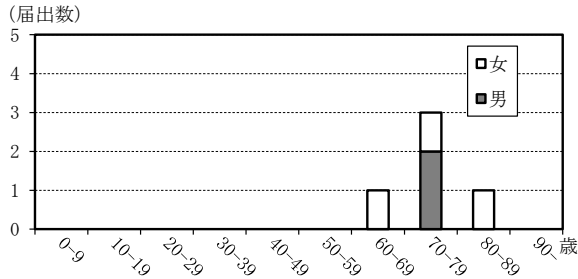


図1-8-1 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
性別及び年齢階級別届出数

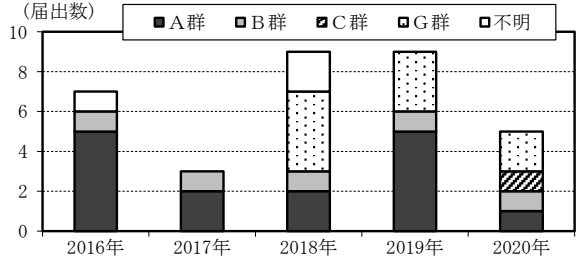


図1-8-2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
過去5年の届出数の推移

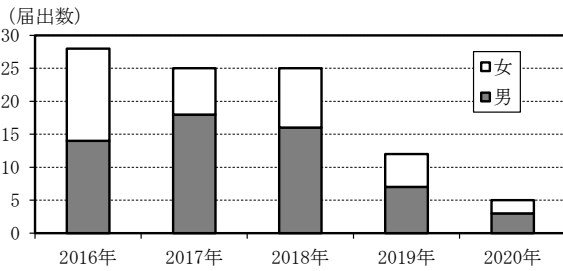


図1-9-1 侵襲性肺炎球菌感染症 過去5年の届出数の推移

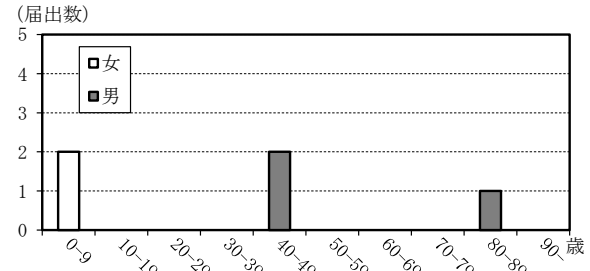


図1-9-2 侵襲性肺炎球菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

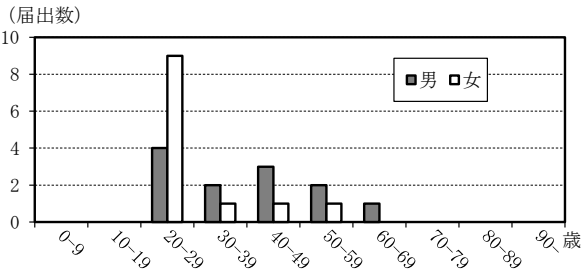


図1-10-1 梅毒 性別及び年齢階級別届出数

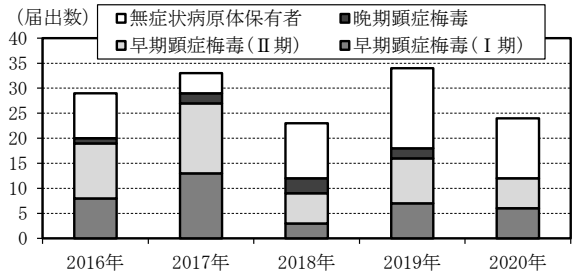


図1-10-2 梅毒 過去5年の届出数の推移

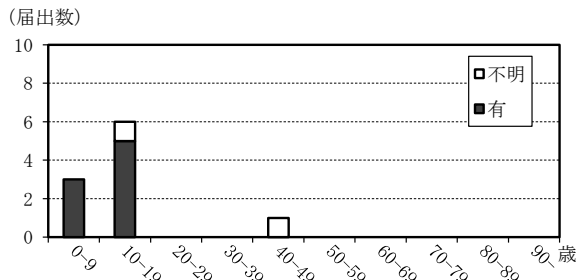


図1-11 百日咳 年齢階級別及びワクチン接種歴

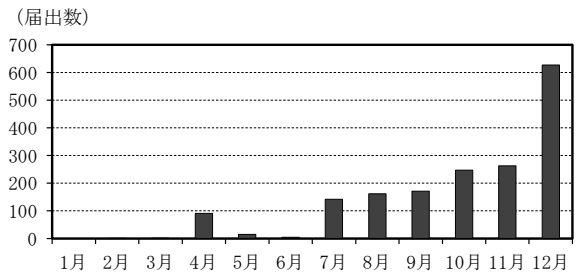


図1-12-1 新型コロナウイルス感染症 月別届出数

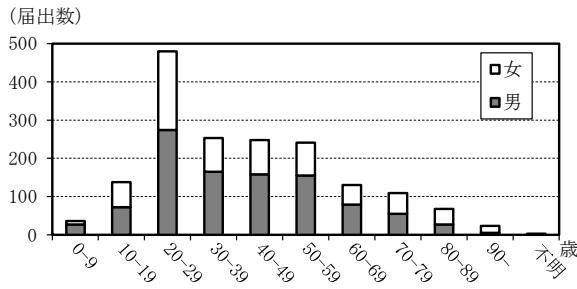


図1-12-2 新型コロナウイルス感染症
性別及び年齢階級別届出数

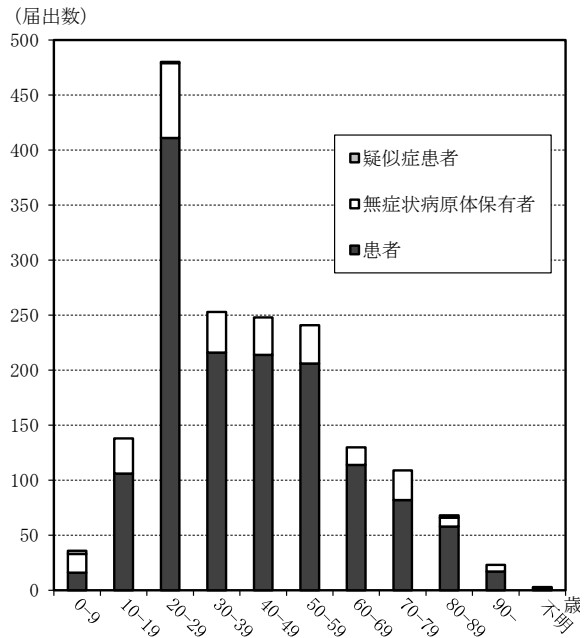


図1-12-3 新型コロナウイルス感染症
類型及び年齢階級別届出数

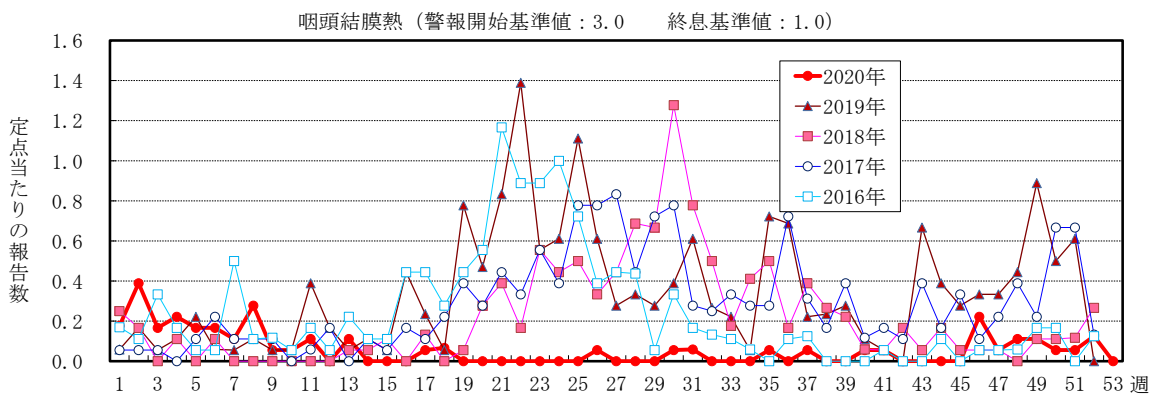
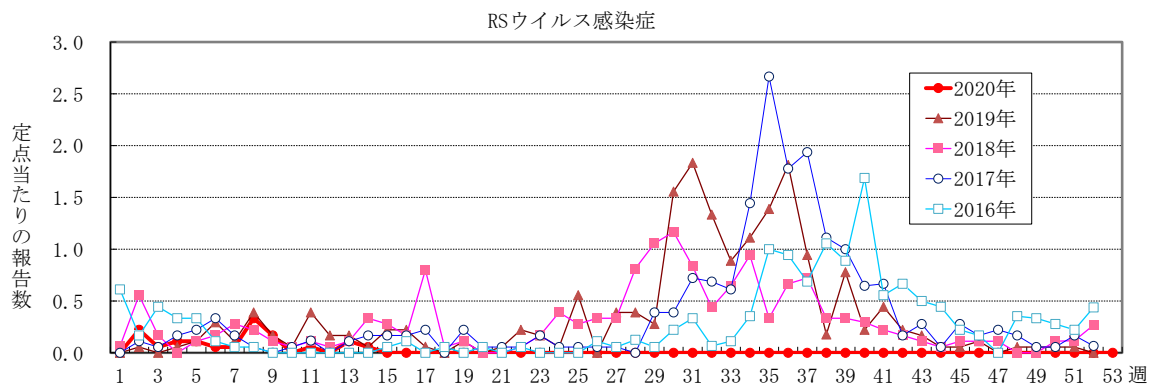


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2016年-2020年）

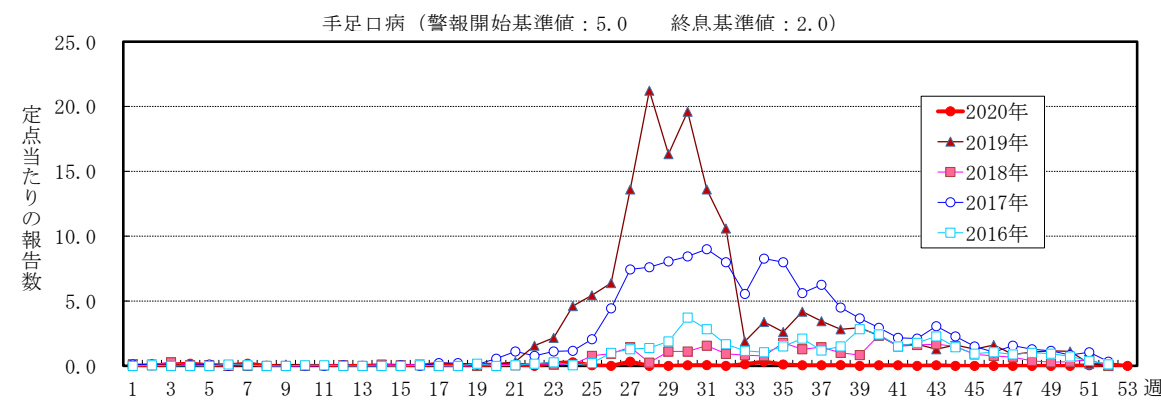
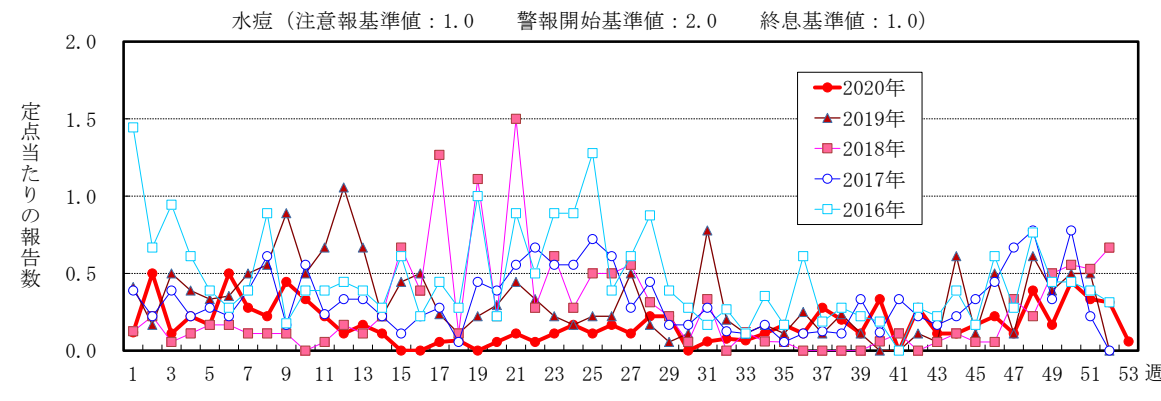
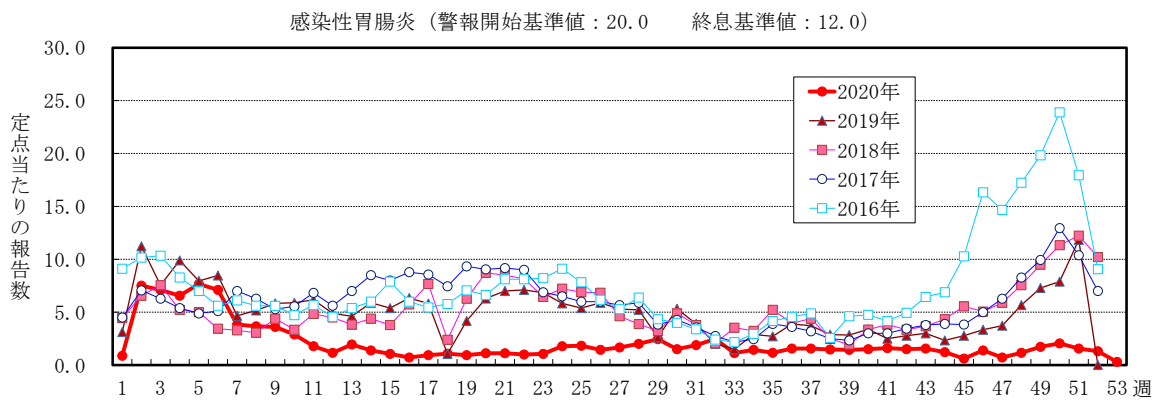
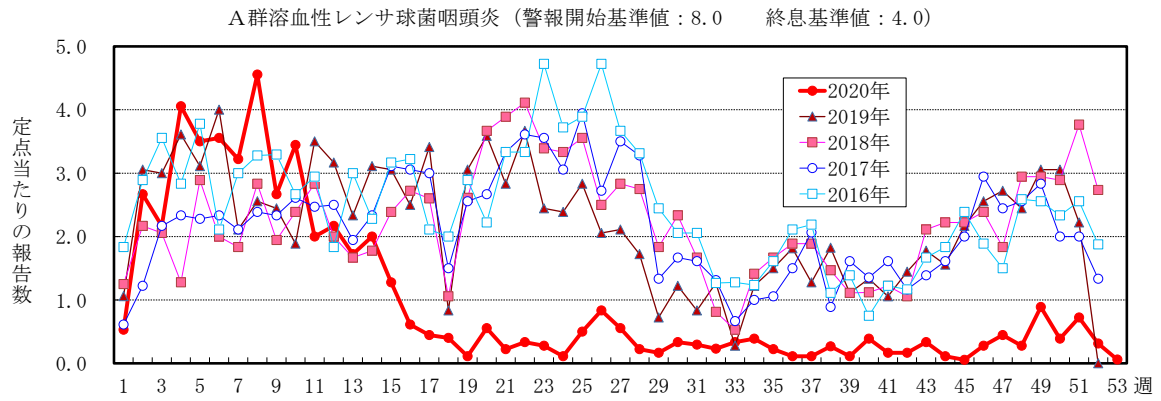


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2016年-2020年）

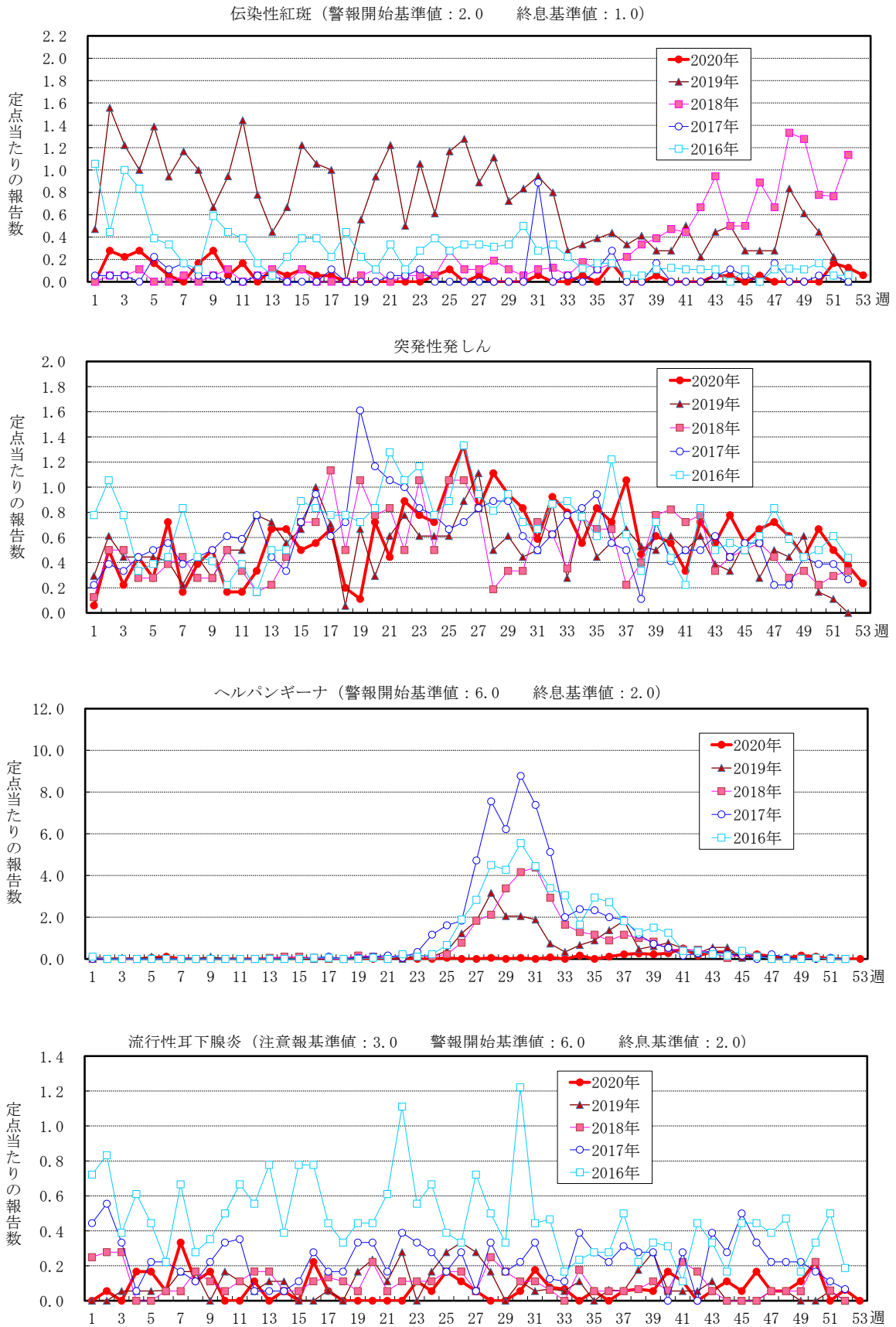


図2-1 定点把握感染症（小児科）報告数の年別推移（2016年-2020年）

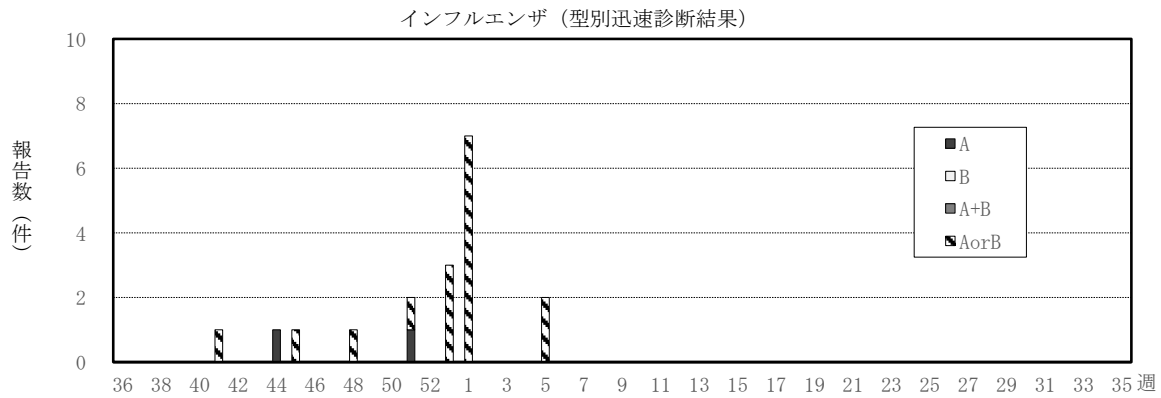
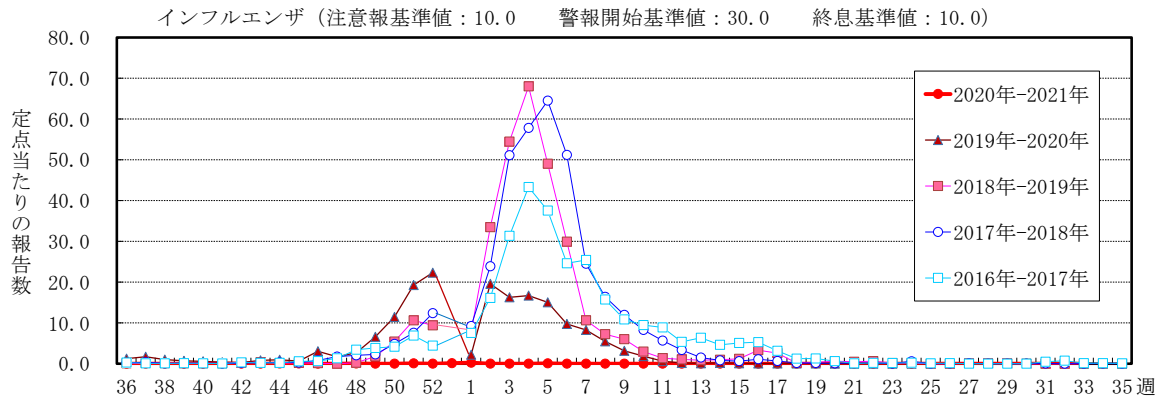


図2-2 定点把握感染症（インフルエンザ）報告数のシーズン別推移（2016年-2017年/2020年-2021年）
及び型別迅速診断結果（2020年-2021年）

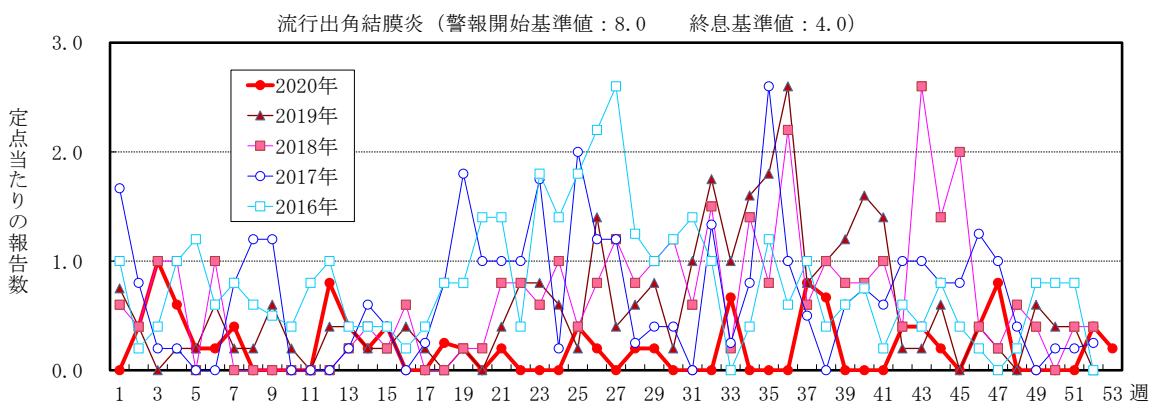
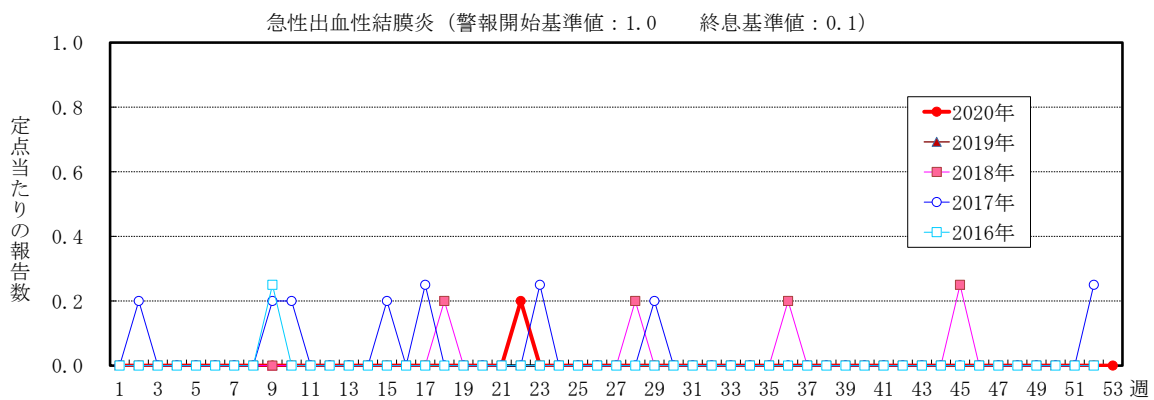


図2-3 定点把握感染症（眼科）報告数の年別推移（2016年-2020年）

表1-18 定点把握性感染症の月別報告数（2020年）

類型	感染症名		月別報告数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5類	性器クラミジア感染症	計	120	113	125	121	95	81	128	142	134	157	150	155	1521
			17.1	16.1	17.9	17.3	13.6	11.6	21.3	20.3	19.1	22.4	21.4	25.8	18.5
		男	105	103	113	112	85	67	122	133	126	152	145	149	1412
		女	15	10	12	9	10	14	6	9	8	5	5	6	109
		2.1	1.4	1.7	1.3	1.4	2.0	1.0	1.3	1.1	0.7	0.7	1.0	1.3	
5類	性器ヘルペスウイルス感染症	計	22	24	16	19	20	16	14	26	29	21	23	19	249
			3.1	3.4	2.3	2.7	2.9	2.3	2.3	3.7	4.1	3.0	3.3	3.2	3.0
		男	17	17	11	13	15	11	12	18	22	16	15	14	181
		女	5	7	5	6	5	5	2	8	7	5	8	5	68
		1.0	0.7	0.9	0.7	0.7	0.3	1.1	1.0	0.7	1.1	0.8	0.8		
5類	尖圭コンジローマ	計	16	16	18	15	11	18	17	12	16	20	17	15	191
			2.3	2.3	2.6	2.1	1.6	2.6	2.8	1.7	2.3	2.9	2.4	2.5	2.3
		男	13	14	16	12	9	17	12	11	14	18	15	13	164
		女	3	2	2	3	2	1	5	1	2	2	2	2	27
		0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	0.1	0.8	0.1	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	
5類	淋菌感染症	計	20	18	22	17	17	18	33	47	34	38	39	44	347
			2.9	2.6	3.1	2.4	2.4	2.6	5.5	6.7	4.9	5.4	5.6	7.3	4.2
		男	12	15	21	14	15	17	32	45	32	35	39	43	320
		女	8	3	1	3	2	1	1	2	2	3	0	1	27
		1.1	0.4	0.1	0.4	0.3	0.1	0.2	0.3	0.3	0.4	0.0	0.2	0.3	
なし	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	計	10	13	8	4	14	6	4	8	7	4	9	5	92
			1.4	1.9	1.1	0.6	2.0	0.9	0.7	1.1	1.0	0.6	1.3	0.8	1.1
		男	10	13	8	4	14	6	4	8	7	4	9	5	92
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

表1-19 基幹定点把握感染症の月別報告数（2020年）

類型	感染症名		月別報告数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5類	メチシリン耐性ブドウ球菌感染症	計	1	3	5	4	5	1	4	7	6	4	3	4	47
		男	1	1	3	1	4	0	1	5	4	2	2	1	25
		女	0	2	2	3	1	1	3	2	2	2	1	3	22
5類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
		男	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
		女	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
5類	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		男	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(数字は定点あたりの報告数/定点数：1)

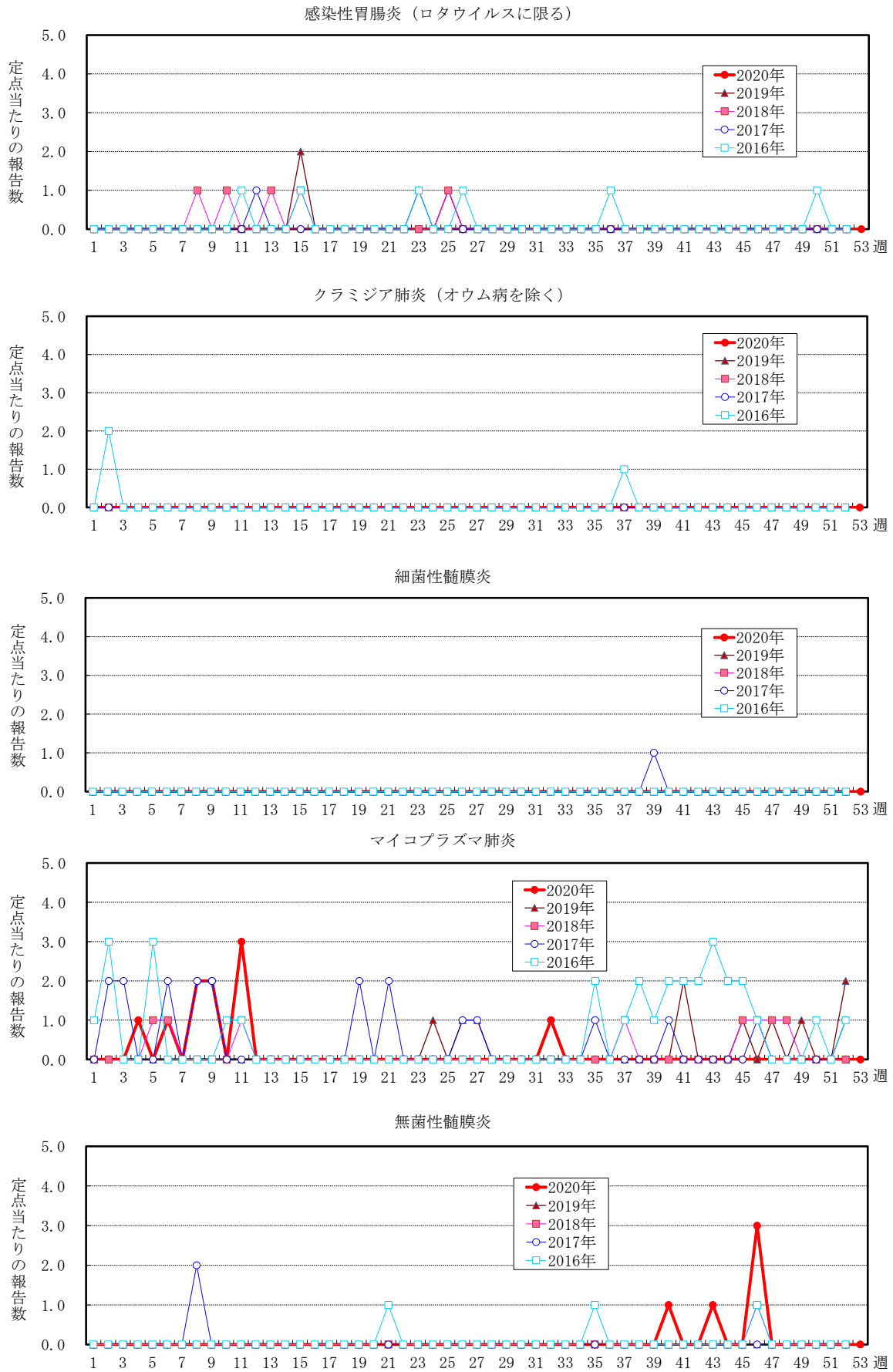


図2-4 定点把握感染症（基幹）報告数の年別推移（2016年-2020年）